

平成30年12月27日

岩倉市議会

議長 黒川 武 様

会派名 真政クラブ

代表者名 塚本秋雄

第13回全国市議会議長会研究フォーラム報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

- 1 実施日 平成30年11月14日（水）～11月15日（木）
- 2 研修先 宇都宮市文化会館
栃木県宇都宮市明保野町142
- 3 出席人数及び氏名

5 名	塚本秋雄	堀 巖
	宮川 隆	鈴木麻住
	櫻井伸賢	

- 4 復命事項

別紙のとおり

第13回全国市議会議長会研究フォーラム報告書

平成30年12月27日

- 1、 研究期間 平成30年11月14日（水）～15日（木）
- 2、 場 所 宇都宮市文化会館（宇都宮市明保野町7-66）
- 3、 参加者 塚本秋雄・堀 巖・宮川 隆・鈴木麻住・櫻井伸賢

開会の言葉として、議会の共通の課題である、活力に満ちた地域づくりに、住民とどのようにかかわるか、議会と住民の関係をテーマにしました。約2000人が集まった。宇都宮市長からは、ネットワーク型、コンパクトシティの視点で、公共交通により、自力で行き帰ることを支えていく。宇都宮市は、30店舗あるぎょうぎ店、ジャズ音楽、カクテル、自転車のまちであると紹介された。

第1部 基調講演「共生社会と地方自治体」 宮本太郎（中央大学法学部教授）

地域共生社会をどうつくるか。2040年問題を超えることのできる自治体のかたち。人生100年時代と言われていて、長寿・長命化時代、喜ばれてもいいのに、現実は厳しい。消滅可能性の自治体が言われているが、一人一人にきちっと出番をつくってやる。むしろウエルカムである。ピンチをチャンスにする。元気な人口をどれだけつくるかである。自治体は何をするのか？特に定年後の男性高齢者への場づくり、地縁・仕事縁など新しい縁づくりをする。

みんなが長生きして、年金が少なくなることによる困窮化。会社人間が地域とは

無縁でつながりが弱いための孤立化。地域の「退職者の会」には微妙な空気がある。過去のプライドがある。現役世代が1600万人減る。会社任せの日本であった。支える支えられる社会は、肩車から重量挙げといわれるように、1967年の人口1億人だったが、2053年には人口1億人になるといわれている。

東京圏と地方圏の今後を分析すると、漏斗化社会（若年層流失）となる。

これまでの制度では対応しきれない。保護する仕組みだけである。

地縁、血縁が縮小しても、結びつきが強くなれるかが問われている。

小学校地区単位の「おだんごトーク」は、あんこがしっかり入っていることである。今までは、公共事業による地域に寝づけることができた。地元雇用機会をつくる仕掛けがあった。一刻も早く元気なうちに働きかけることが「地域共生社会」。これからは縦割りをやめて、支え手、受け手をやめる。誰でもが人財（三重県名張市の例）であり、生涯活躍のまちにする。高齢者をお荷物とみるか資源とみるかである。高齢者雇用安定法の見直しをすること。年金兼業型就業、ユニバーサル就業、農業（青森県弘前市に例）、林業などずっと出番のあるまちにする。高齢者は結晶性知能（洞察力、コミュニケーション能力）がある。

地縁・血縁・社縁から、新しい家族縁、新しい地縁、新しい仕事縁は必要縁。

第2部 パネルディスカッション「議会と住民の関係について」

地域は変わりつつある。地域の課題が出てきている。今後も大事だが、現在どう

なっているのか？机上ではなく現実はどうか？社会が多様化している。一つの自治体では解決できん。

今井照氏から、いろんな方々がいる。いろんな角度から考えると題してのレポート「自治体政治の総量を上げる一市議会の特質では、行政への期待が高いが、議員、議会の期待が低い。身近な政治になっていない。市民活動から議会への問いかけでは、法律に基づかない事務処理陳情に対して、行政を擁護し議会は自らの権限放棄などがある。自治体政治の総量を上げるとは、権力が議会にあることを示すこと。政治とは、執行させること。監視すること。評価することと学んだ。

本田節氏から、人吉市議2期務めその後、県議選敗れるが、ヨーロッパグリーンツーリズム学ぶ。現在150日ほど全国を回っている。ふるさとの抱える課題と現状は、人口減少、AI導入、外国人増えること。女子力、主婦力、高齢者力でコミュニティーレストラン経営し、地産地消、自己啓発、自立、生涯現役でネットワークをつくり、交流と研修で頑張っていることが話された。

ジャーナリストの神田誠司氏からは、先進議会からの事例報告会として、問責決議合戦やっけてくだらない。議会が多様な民をどう汲み上げあげるか？議会が組織たり得ているのか問われた。議会報告会は報告ではなく聞くこと。話す力ではなく、聞く力である。住民の話をちゃんと聞くことである。

住民から信頼される議員とは、人格、使命感、誇り、情熱、実践力、行動力と学

んだ。議会と市民はイコールである。議会を応援するために陳情を出してくる。普通の人が見るのは議会だよりであり、それを充実すること。ネットで見るのは理解ある人である。議会改革が進んでも投票率は下がる。1950年にできた公職選挙法を変えること。改革の中に住民を巻き込んでいくこと。学びを多くすることである。議長任期を長期化する。自治の基本は多様化である。正当に選ばれた議会の合議制は大事である。主権者教育とは議会が若者をまちづくりにしていく。

【来年の開催市は、高知県高知市。2019年10月30日(水)～31日(木)】

第3部 意見交換会参加

第4部 課題討議「議会と住民の関係について」

議員・議長から事例報告と悩みが話された。

久慈市議会からは、主な議会改革の取り組みとして、きっかけは若い事務局職員が北川正恭氏のもとへ勉強に行った。2011年正副議長選挙で議会改革をもって当選する。2014年3月議会基本条例を制定した。議員と語る。議員と一緒にやる。議会の災害時に役立つタブレットによるICT化、通年会期制、委員会代表質問などである。全国初の議会同士の友好交流協定を千葉県袖ヶ浦市議会と締結している。

新潟市議会からは、中学生・高校生への主権者教育プロジェクトを教育委員会や

選挙管理委員会とともに、議長の強いリーダーシップのもと、平成27年当選の

1年生議員13名で考え取り組んだ。校長会など学校への配慮が大事である。

我々は喧嘩するのではなく、意見が違って、合意形成することである。

犬山市議会からは、改革より機能向上が第2ステージである。市民に役立つよう

に、議員間討議と市民参加に力を入れていることの報告があった。議員間討議で

活性化し議会が変わる。市議会からの提案(予算修正、議会提出議案、意見書案、

決議案、付帯決議など)がより活発になった。

女性議会と市民フリースピーチの取り組み紹介がなされた。

竹原市議会からは、議員定数は14名。自分の経験と子育てなど、女性の発信か

ら体験談を話されて。人として、議員としての根底にある部分が話された。

女性議長に就任し、議会の見える化、情報発信など豪雨災害の経験、災害は正しい

情報が一番であると思う。

政治家は、生活者の生の声を広く受け止め政策に活かす。政治こそ、女性の力が

必要であり、お互いが尊重し認め合う議会を目指していると語られた。

コーディネーターの江藤俊昭氏からは、議会改革の最初は「議会基本条例」制定

である。議会は住民自治の根幹であり、次は住民福祉の向上につなげること、議

会としての政策サイクルとして活動することである。

参考資料：「第13回全国市議会議長会研究フォーラム in 宇都宮 資料集」